

GPS・地図・サーバ の実践的用法

日本Androidの会
PayForwardingプロジェクト

GPSと地図を使ったアプリの事例として、震災直後から活動を開始した「PayForwardingプロジェクト」によるアプリの例を紹介します。

2011年3月11日、午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源とするM9.0の地震が発生しました。最大震度7(宮城県栗原市)を記録し、日本のほぼ全域で有感地震となりました。東日本大震災です。

この状況の中、日本Androidの会では、これらの動きに対して「災害支援アプリマッシュアップミーティング」を開催し、災害支援アプリの検討・作成を行うプロジェクト「PayForwarding」を開始しました(p.38～参照)。このプロジェクトでは、**図1**～**図3**をはじめとするAndroidアプリなどの成果が生まれました。

本稿では、これらのアプリでのGPS、地図、サーバの実践的な実装方法を紹介いたします。(みわ よしこ)

作成アプリ ～sinsai.info～

sinsai.infoと聞いてすぐに気付いた人もいると思います。このアプリは**図4**のWebサイト「sinsai.info 東日本大震災|みんなでつくる復興支援プラットフォーム」(以下sinsai.infoサイト、<http://sinsai.info/>)と深く関係しています。このサイトには、レポートという復興支援につながる情報を整理し、掲載しています。レポートは

sinsai.infoに参加されているモデレータという人たちの手作業で行われています。総数は1万を優に超え、現在でも支援物資、ボランティア募集、受け入れ情報など、随時追加されています。

sinsai.infoサイトは、Ushahidi(<http://shahidi.com>)というオープンソースの危機管理プラットフォームを利用しています。これは、世界中で30を超える多くの国とサイトで、選挙の監視や災害時の情報収集などに利用されています。危機に直面した人が、自ら危機情報を報告(レポート)できます。そして情報はインターネット上の地図にマッピングされるので、どこで何に困っているのかという情報を共有できます。

sinsai.infoアプリもUshahidi(Android Marketで公開中)がベースです。ライセンスはLGPLです。これを飯塚 康至



図1 アプリ「近くの避難所」

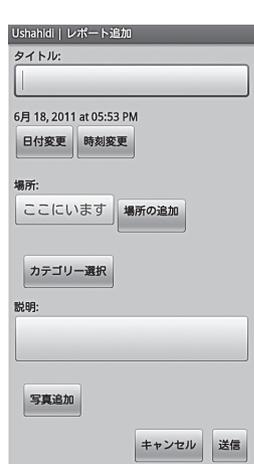


図2 アプリ「sinsai.info」

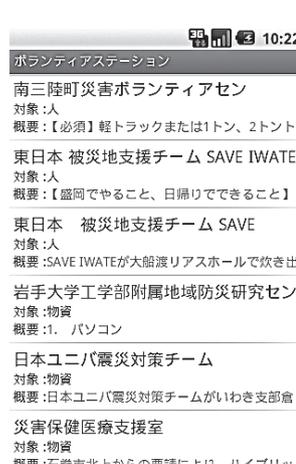


図3 アプリ「助けあいジャパン ボランティア情報ステーション」



図4 sinsai.infoのWebサイト(<http://sinsai.info/>)